

第4回 東海環状西回り利活用促進会議

日時：令和元年11月8日(金) 13:30～15:00

場所：長良川国際会議場

議事次第

1. 開会挨拶 岐阜県 県土整備部長
2. 開催地挨拶 岐阜市副市長
3. 話題提供
『東海環状自動車道全線開通による全国への経済インパクト』
宮下 光宏氏 MURC政策研究事業本部
4. ワークショップの結果報告
5. 意見交換
6. 閉会挨拶 三重県 県土整備部長

第4回 東海環状西回り利活用促進会議 名簿

日時：令和元年11月8日（金）13:30～15:00

場所：長良川国際会議場 大会議室

開催地代表	岐阜市副市長	檜橋 康英		
代表理事	岐阜県県土整備部長	宗宮 裕雄		
	三重県県土整備部長	渡辺 克己		
理事	行	岐阜市基盤整備部長	浅野 昌彦	
		大垣市建設部長兼東海環状推進室長	高橋 時雄	
		多治見市都市計画部長	細野 道仲	
		関市建設部長	後藤 浩孝	
		美濃市建設部長	池田 健一	
		羽島市建設部長	岩田 靖	
		美濃加茂市建設水道部長	西田 恒夫	
		土岐市建設水道部長	菅内 厚視	
		各務原市都市建設部長	服部 隆	[代理] 技術調整監 中村 勝仁
		可児市建設部長	丹羽 克爾	
		山県市建設課長	大西 一也	
	政	瑞穂市都市整備部長	鹿野 政和	[代理] 都市開発課 堀部 哲也
		本巣市産業建設部長	原 誠	
		海津市建設水道部長	石原 敏彦	
		岐南町建設部長	朝倉 修一	
		笠松町建設水道部長	田中 幸治	
		養老町産業建設部長	田中 一也	
		垂井町建設課長	高橋 伸行	
		関ヶ原町産業建設課長	福安 健司	
		神戸町産業建設部長 兼東海環状自動車道対策官	石原 博之	
		輪之内町参事	荒川 浩	
		安八町建設調整監兼産業振興課長	岡田 立	
		揖斐川町産業建設部長	高橋 義弘	[代理] 建設課 課長補佐 竹中 正和
		大野町産業建設部長	加納 秀男	
		池田町建設部長兼建設課長	太田 輝美	
		北方町都市環境課技術調整監	桜井 孝昭	
		坂祝町産業建設課長	岩井 正義	
富加町建設課長	足立 謙一			
八百津町建設課長	藤掛 祐司			
御嵩町建設部長	亀井 孝年			
四日市市都市整備部長	稲垣 圭二			
桑名市都市整備部長	西尾 英哲	[代理] 土木課主幹 加古 勇司		

理	行	鈴鹿市土木部長	古澤 忠士	[代理] 土木総務課長 船入 公孝
		亀山市建設部長	大澤 哲也	[代理] 産業建設部参事 兼都市整備課長 草川 保重
		いなべ市建設部長	鈴木 信	
		木曾岬町総務政策課長	伊藤 哲二	
		東員町建設課長	伊藤 徳孝	
		菰野町都市整備課長	斉藤 司	
		朝日町産業建設課長	駒田 早人	
		川越町産業建設課長	石川 雅英	欠席
事	経済団体	岐阜商工会議所専務理事	森 健二	[代理] 総務部長 深尾 浩美
		大垣商工会議所専務理事	三輪 正直	[代理] 中小企業経営指導相談所 相談課長兼振興課長 高井 昌英
		関商工会議所専務理事	坂井 一弘	欠席
		各務原商工会議所専務理事	各務 英雄	
		羽島商工会議所専務理事	清水 政男	欠席
		四日市商工会議所専務理事	須藤 康夫	
		桑名商工会議所専務理事	森下 充英	
		鈴鹿商工会議所専務理事	内藤 俊樹	
		亀山商工会議所専務理事	坂口 一郎	欠席
		楠町商工会事務局長	築地 義雄	欠席
		桑名三川商工会事務局長	市川 充	欠席
		いなべ市商工会事務局長	佐藤 浩文	欠席
		木曾岬町商工会事務局責任者	橋本 鉄二	欠席
		東員町商工会事務局長	田中 哲也	欠席
		菰野町商工会事務局長	山崎 裕介	欠席
朝明商工会事務局長	北川 雅基			
協力機関	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 主任研究員	南田 あゆみ		
	三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング(株) 主任研究員	宮下 光宏		
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局 道路部長	池口 正晃		
	多治見砂防国道事務所長	植野 利康		
	岐阜国道事務所長	糸野 真一郎		
	北勢国道事務所長	伏木 章尋		
	中日本高速道路(株)名古屋支社 建設事業部長	忽那 幸浩		
	総務企画部企画調整課長	姫野 浩志		
	岐阜工事事務所長	片寄 学		
	四日市工事事務所長	落合 孝朗		

東海環状西回り利活用促進会議規約

(名称)

第1条 本会は、「東海環状西回り利活用促進会議」と称する。略する場合は、「東環利活用会議」とする。

(目的)

第2条 本会は、東海環状自動車道を利活用するアクセス道路や地域開発計画等を含めたストック効果を取りまとめ、地域開発への理解を醸成するとともに、工業、商業、農業、観光等の幅広い協力を得ることでストック効果の最大化を図り、地域の持続的なまちづくりを支援することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 東海環状自動車道の利活用に関する取り組み
- (2) インフラ整備のストック効果に関する取り組み
- (3) 各種広報啓発活動等の実施
- (4) 工業、商業、農業、観光等の幅広い「生の声」の把握
- (5) その他、本会の目的達成に必要な事業

(組織)

第4条 本会は、別表－1に示す岐阜県、三重県、東海環状自動車道関係地域の市町村及び経済団体等をもって組織する。

2 本会は、別表－2に示すワーキンググループを置くものとする。

(役員)

第5条 本会は、次の役員をもって構成する。

- (1) 代表理事
- (2) 理事

2 代表理事は、岐阜県県土整備部長、三重県県土整備部長とする。

3 代表理事は、本会を代表し、会務を総括する。

(ワーキンググループ)

第6条 ワーキンググループは、事業の検討・調整等を行う。

2 ワーキンググループの会長は、岐阜県県土整備部道路建設課長、三重県県土整備部道路企画課長とする。

3 会長は、ワーキンググループを総括する。

(協力機関)

第7条 本会は、本会の目的に賛同する製造業、物流業、商業、観光業等の民間企業、観光協会、農協、医療施設、行政機関等について、協力機関として事業に協力を求めることができるものとする。

(招集)

第8条 本会は、代表理事が招集する。

2 本会の議長は、代表理事又は代表理事が指名した者が行う。

3 ワーキンググループは、会長が招集する。

4 ワーキンググループの議長は、会長又は会長が指名した者が行う。

(事務局)

第9条 本会の事務局は、岐阜県県土整備部道路建設課、三重県県土整備部道路企画課とし、相互に協力するものとする。

(その他)

第10条 本規約に定めのない事項は、協議するものとする。

付則

この規約は、平成28年7月14日から施行する。

平成29年8月28日 一部改正 同日から適用する。

平成30年12月5日 一部改正 同日から適用する。

令和元年10月8日 一部改正 同日から適用する。

別表－ 1

○東海環状西回り利活用促進会議

代表理事	岐阜県県土整備部長	三重県県土整備部長
理事	岐阜市基盤整備部長 多治見市都市計画部長 美濃市建設部長 美濃加茂市建設水道部長 各務原市都市建設部長 山県市建設課長 本巣市産業建設部長 岐南町建設部長 養老町産業建設部長 関ヶ原町産業建設課長 輪之内町参事 揖斐川町産業建設部長 池田町建設部長兼建設課長 坂祝町産業建設課長 八百津町建設課長 四日市市都市整備部長 鈴鹿市土木部長 いなべ市建設部長 東員町建設課長 朝日町産業建設課長	大垣市建設部長兼東海環状推進室長 関市基盤整備部長 羽島市建設部長 土岐市建設水道部長 可児市建設部長 瑞穂市都市整備部長 海津市建設水道部長 笠松町建設部長 垂井町建設課長 神戸町産業建設部長兼東海環状自動車道対策官 安八町建設調整監兼産業振興課長 大野町産業建設部長 北方町都市環境課技術調整監 富加町建設課長 御嵩町建設部長 桑名市都市整備部長 亀山市産業建設部長 木曾岬町総務政策課長 菰野町都市整備課長 川越町産業建設課長 (市町村・・・19市21町)
	岐阜商工会議所専務理事 関商工会議所専務理事 羽島商工会議所専務理事 四日市商工会議所専務理事 鈴鹿商工会議所専務理事 楠町商工会事務局長 いなべ市商工会事務局長 東員町商工会事務局長 朝明商工会事務局長	大垣商工会議所専務理事 各務原商工会議所専務理事 桑名商工会議所専務理事 亀山商工会議所専務理事兼事務局長 桑名三川商工会事務局長 木曾岬町商工会事務局責任者 菰野町商工会事務局長 (経済団体・・・16団体)
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局道路部長 国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所長 国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所長 国土交通省中部地方整備局北勢国道事務所長 中日本高速道路(株)名古屋支社建設事業部長 中日本高速道路(株)名古屋支社総務企画部企画調整課課長 中日本高速道路(株)名古屋支社岐阜工事事務所長 中日本高速道路(株)名古屋支社四日市工事事務所長	

(令和元年10月 8日現在)

別表－２

○岐阜県ワーキンググループ

会 長	岐阜県県土整備部道路建設課長	
会 員	岐阜市基盤整備部広域事業推進課長 多治見市都市計画部都市政策課長 美濃市建設部都市整備課長 美濃加茂市建設水道部都市計画課長 土岐市建設水道部調整監兼建設総務課長 各務原市都市建設部建設管理課長 山県市建設課長 本巣市産業建設部建設課長兼東海環状自動車道・幹線道路推進室長 海津市建設水道部建設課東海環状推進室長 岐南町建設部建設課長 養老町産業建設部建設課長 関ヶ原町産業建設課長 輪之内町建設課長 揖斐川町産業建設部次長兼建設課長 大野町産業建設部建設課長兼東海環状自動車道推進室長 池田町建設部長兼建設課長 坂祝町産業建設課長 八百津町建設課長	大垣市建設部道路課長兼東海環状推進室次長 関市基盤整備部建設総務課長 羽島市建設部土木監理課長 可児市建設部都市計画課長 瑞穂市都市整備部都市開発課長 笠松町建設部建設課長 垂井町建設課長 神戸町産業建設部建設課長 安八町企画調整課長 北方町都市環境課長 富加町建設課長 御嵩町建設部建設課長
	（市町村・・・14市16町）	
	岐阜商工会議所総務部長 関商工会議所事務局長 羽島商工会議所事務局長	大垣商工会議所相談課長 各務原商工会議所総務事業課長
	（経済団体・・・5団体）	
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所計画課長 国土交通省中部地方整備局岐阜国道事務所計画課長 中日本高速道路（株）名古屋支社総務企画部企画調整課課長代理 中日本高速道路（株）名古屋支社岐阜工事事務所工務課長	

（令和元年10月8日現在）

○三重県ワーキンググループ

会 長	三重県県土整備部道路企画課長	
会 員	四日市市都市整備部次長兼都市計画課長 鈴鹿市土木部土木総務課長 いなべ市建設部高速道路対策課長 東員町建設課長 朝日町産業建設課長	桑名市都市整備部土木課長 亀山市産業建設部都市整備課長 木曾岬町総務政策課長 菰野町都市整備課長 川越町産業建設課長
	（市町村・・・5市5町）	
	四日市商工会議所理事・事務局長 鈴鹿商工会議所事務局長 楠町商工会事務局長 いなべ市商工会事務局長 東員町商工会事務局長 朝明商工会事務局長	桑名商工会議所事務局長 亀山商工会議所専務理事兼事務局長 桑名三川商工会事務局長 木曾岬町商工会事務局長責任者 菰野町商工会事務局長
	（経済団体・・・11団体）	
オブザーバー	国土交通省中部地方整備局北勢国道事務所計画課長 中日本高速道路（株）名古屋支社総務企画部企画調整課課長代理 中日本高速道路（株）名古屋支社四日市工事事務所工務課長	

（令和元10月8日現在）

2019年11月5日

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

東海環状自動車道全線開通による全国への経済インパクトは50年間で約27兆円

～製造業のみならず関連業種にも広く経済効果が波及～

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社(本社:東京都港区、代表取締役社長:村林 聡)は、整備が進む東海環状自動車道(以下、東海環状道)の沿線地域(東海環状道内側の自治体を含む。以下、中京圏)を対象として、今後の全線開通により見込まれる経済波及効果の分析を行いました。このたび、その分析結果がまとまりましたので発表いたします。

■ 研究結果の概要

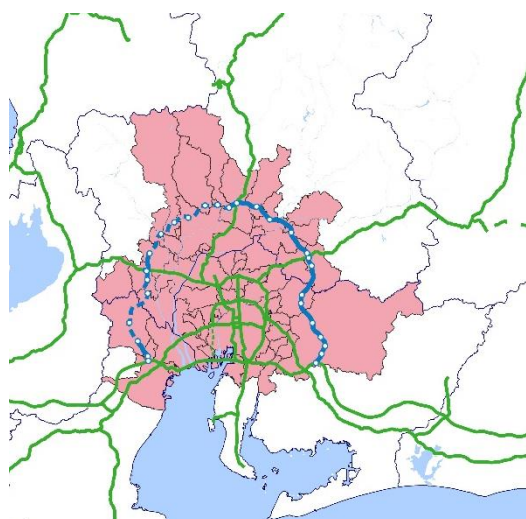
東海環状道は、2005年に豊田市から岐阜県関市までの区間(東回り区間)が開通し、その後、美濃関ジャンクション(以下、JCT)から関広見インターチェンジ(以下、IC)など順次開通してきました。2019年度には、関広見ICから山県IC間、大垣西ICから大野神戸IC間が開通する予定で、国の財政投融资を活用し、全線開通に向けて事業が進められています。新しい令和の時代を迎え、東海環状道の全線開通が視界に入ってきたことを踏まえ、全線開通が沿線地域をはじめとする地域経済にあたる経済インパクトを分析しました。

この結果、全線開通による全国への経済インパクトは全線開通後50年間の累計で約27.0兆円になると見込まれ、そのうち中京圏への経済インパクトは同約14.3兆円が見込まれることがわかりました。

分析の結果、全線開通の経済インパクトは製造業だけではなく、対事業所サービスなど関連業種への波及も大きいことがわかりました。

■ 分析対象エリア

本研究では、東海環状道の沿線自治体及びその内側に位置する自治体を中京圏と定義し、分析の対象地としました。

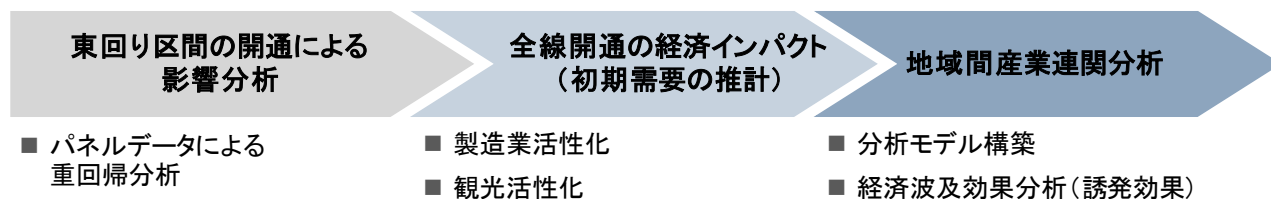


■は中京圏と定義する自治体

中京圏に含まれる自治体	
岐阜県	岐阜市、大垣市、多治見市、関市、美濃市、羽島市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、山県市、瑞穂市、本巣市、海津市、岐南町、笠松町、養老町、神戸町、輪之内町、安八町、大野町、北方町、坂祝町、富加町、八百津町、御嵩町
愛知県	名古屋市、一宮市、瀬戸市、春日井市、津島市、刈谷市、豊田市、犬山市、江南市、小牧市、稲沢市、東海市、大府市、尾張旭市、岩倉市、豊明市、日進市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、みよし市、あま市、長久手市、東郷町、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村
三重県	四日市市、桑名市、いなべ市、木曽岬町、東員町、朝日町、川越町

■ 分析の考え方

東海環状道の東回り区間のこれまでの開通に伴う影響について、沿線地域等において、東海環状道が「あった場合」と「なかった場合」の状況を想定した変数を用いて重回帰分析を行うことにより、その開通インパクト傾向を推計しました。その結果を用いて、全線開通に伴う製造業及び観光への直接的な影響を簡易的に試算しました。さらに、中京圏とその周辺地域を区分した地域間産業連関分析モデルを構築し、産業への誘発効果、地域間への誘発効果を分析しました。



ポテンシャル分析の検討フロー

■ 分析モデル

既往研究を参考に、中京圏－東海3県－全国 地域間産業連関分析モデル（34部門、2010年）を構築しました。この分析モデルを用いることで、中京圏内の各産業部門間における取引関係だけでなく、中京圏と中京圏外全国との取引関係を把握することができ、中京圏と全国への経済インパクトを同時に求めることが可能となります。

- 分析結果の詳細については、当社公式ホームページ掲載の政策研究レポートをご覧ください。

URL : https://www.murc.jp/report/rc/policy_research/politics/seiken_191105/

【本件に関するお問い合わせ】

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
政策研究事業本部[名古屋] 研究開発部 宮下、右近
〒461-8516 名古屋市東区葵 1-19-30
TEL:052-307-1103

【報道機関からのお問い合わせ】

コーポレート・コミュニケーション室 杉本 TEL:052-307-1106 E-mail:info@murc.jp
配布先 名古屋金融記者クラブ

東海環状自動車道開通による 経済インパクト

2019年 11月 8日

政策研究事業本部 研究開発部 社会資本政策グループ
主任研究員 宮下 光宏

1. はじめに

1

東海環状自動車道
開通延長が100km超え
(2019年度、総延長の7割)
全線開通が視野に

2

開通効果を早期にかつ
最大限に発揮させることが
重要

3

全線開通が地域経済に
与えるインパクトを提示

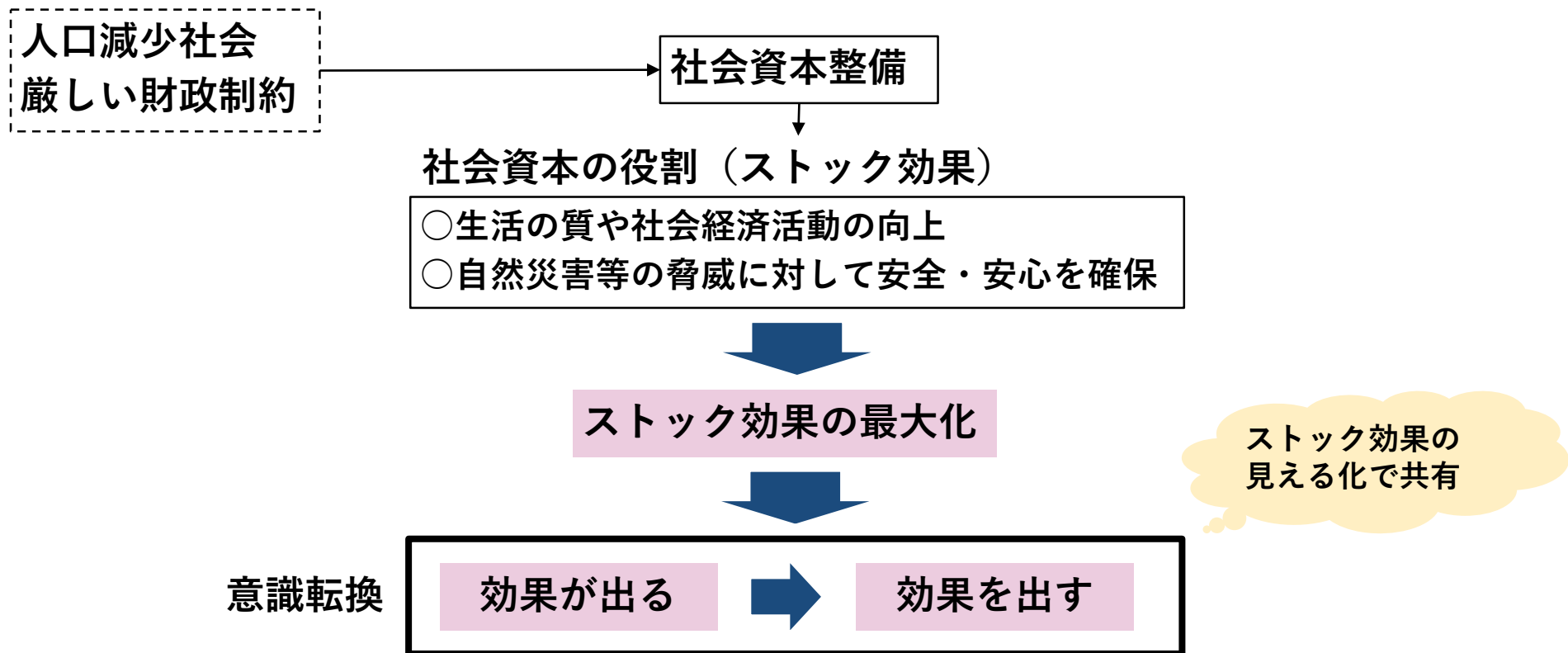
4

都市圏が一体となって
「効果を出す」
取組を促したい

東海環状自動車道 延長約153km



2. 社会資本整備を取り巻く環境



ストック効果最大化に向け、これまでのストック効果の知見を活用して、今後の事業への反映や事業横断的な情報共有／横展開を図ることが重要

3. 東海環状自動車道東回り区間のストック効果

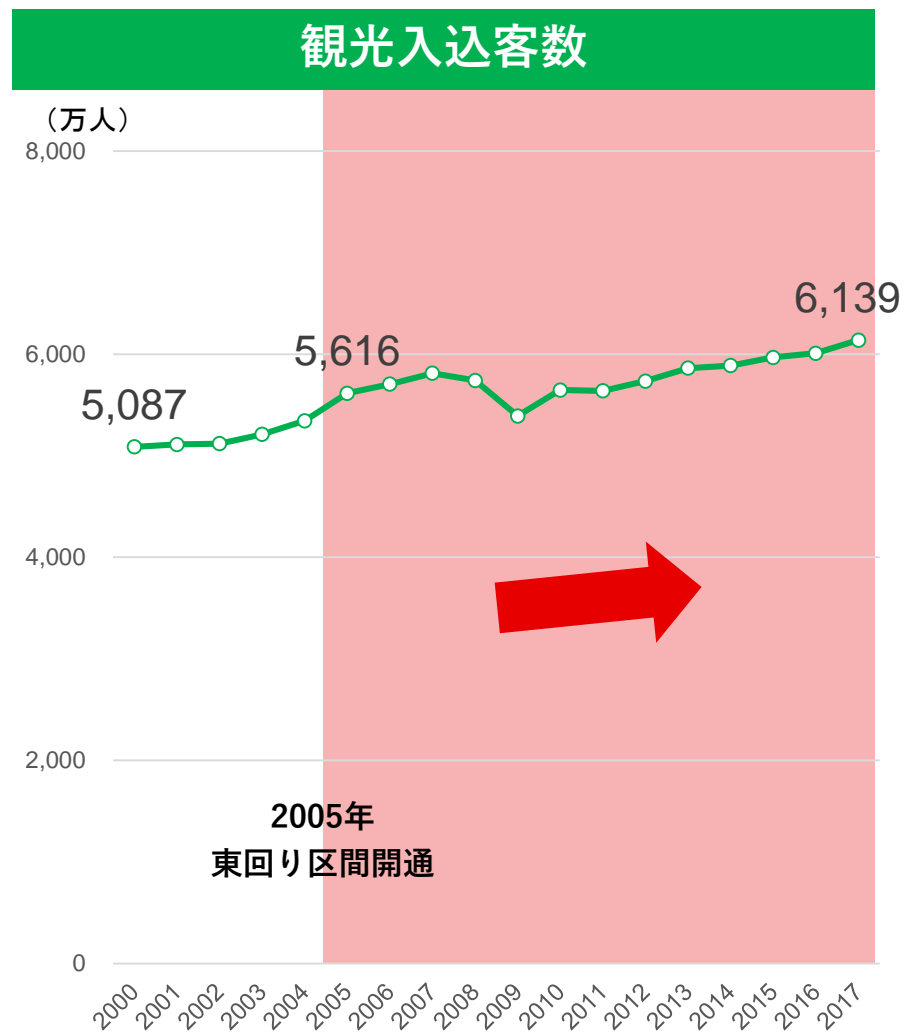
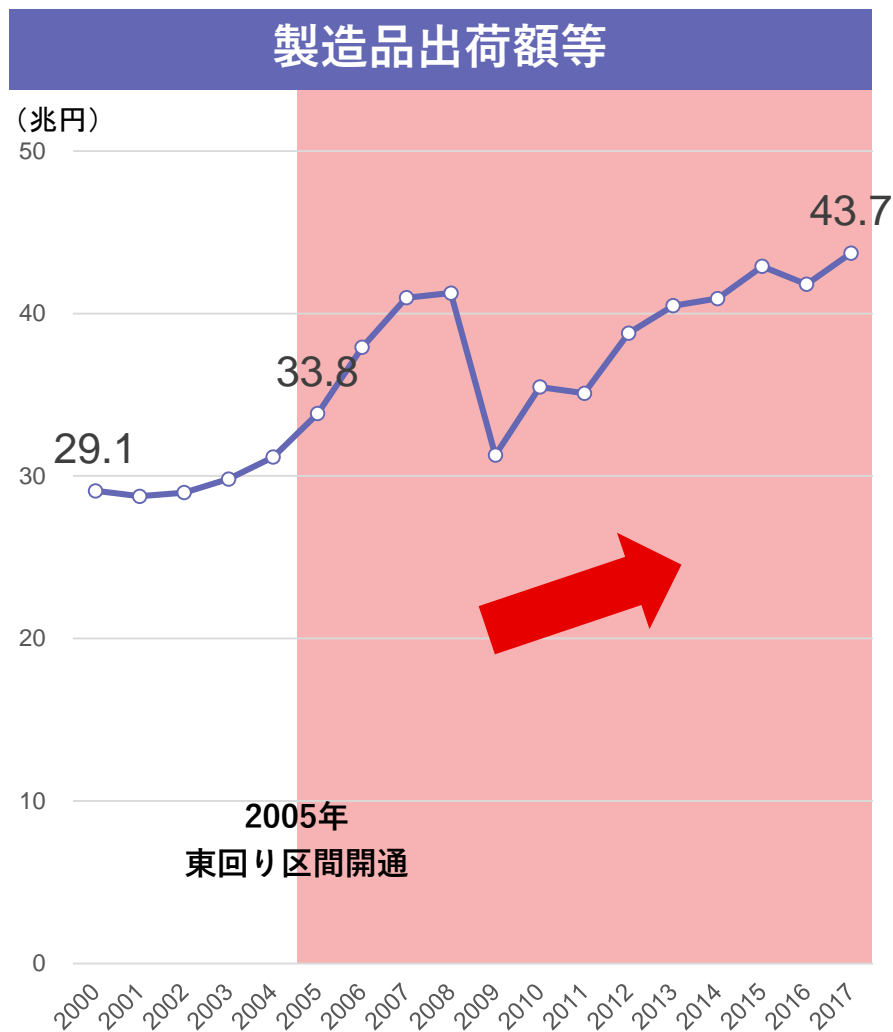
東回り区間の開通により、新たな企業立地、観光入込客増加のストック効果を確認
2000年以降、工業団地が26箇所完成し、従業者数、出荷額等が全国平均を上回る伸び
東回り沿線市町の観光入込客数は増加傾向（10月24日プレスリリース等より）



全線開通の経済インパクトの「見える化」に向けて、「製造品出荷額等」と、「観光入込客数」の統計データに着目

3. 東海環状自動車道東回り区間のストック効果

東回り区間沿線地域の「製造品出荷額等」と「観光入込客数」の推移



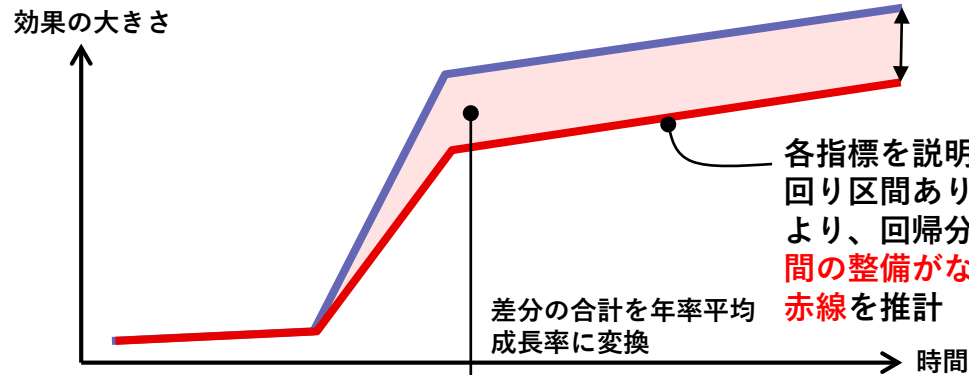
出典：経済産業省「工業統計」

出典：岐阜県「観光入込客統計調査」、愛知県「観光レクリエーション利用者統計」より作成

4. 全線開通による地域ポテンシャル分析

東回り区間沿線地域のストック効果の算出イメージ

製造品出荷額等



年率平均成長率
1.16%

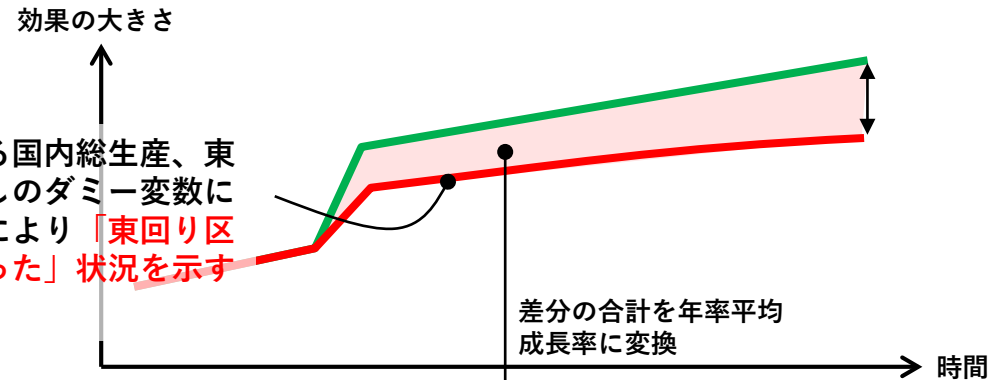
産業連関分析より、製造業の各部門が一律1.16%増加すると仮定。

3,179億円/年

東回り区間の
ストック効果

全線開通による
中京圏への直接効果

観光入込客数



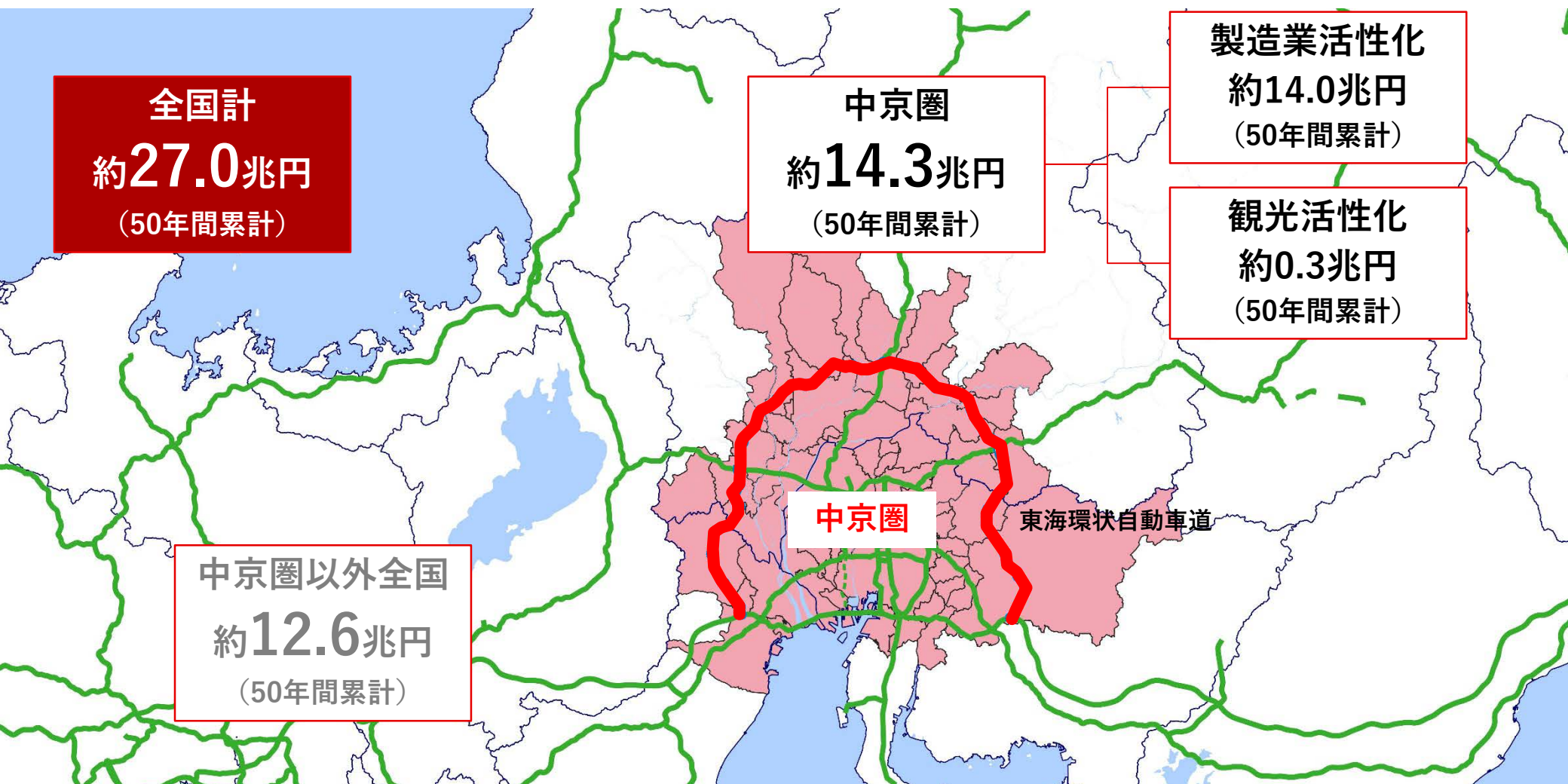
年率平均成長率
2.01%

東海3県の観光消費単価を乗じて観光消費額に換算。
産業連関分析により、直接効果を算出。

72億円/年

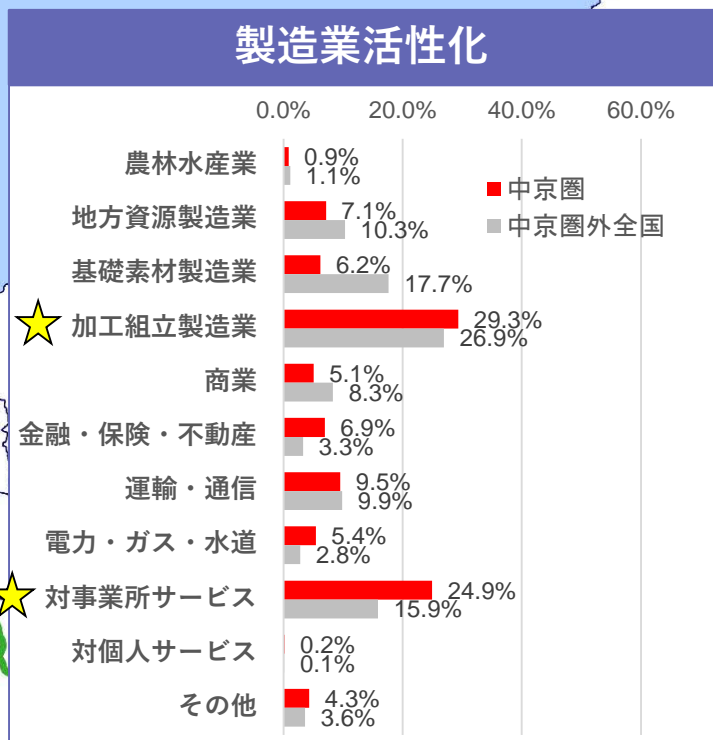
5. 全線開通の経済インパクト

全線開通の経済インパクトは50年間累計で約27兆円。 (地域間産業連関分析モデルより)

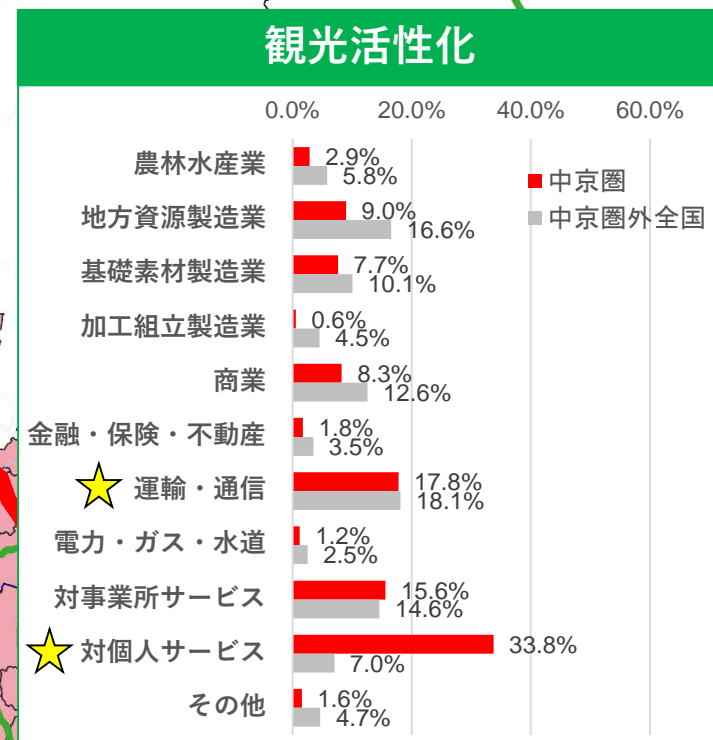


5. 全線開通の経済インパクト

中京圏内産業への波及（生産誘発効果の産業部門別構成比）



対事業所サービス：研究開発、情報サービス、専門サービス、技術サービス、広告業等



対個人サービス：宿泊、飲食サービス、娯楽業、等

6. まとめ

1

東海環状自動車道
 開通延長が100km超え
 (2019年度、総延長の7割)
 全線開通が視野に

2

全線開通の経済インパクト
 全国計約27兆円 (50年間)

3

生産増・消費増のインパクトは
 中部圏内の多様な産業波及
 観光に関してはインバウンドやリニア
 ア開業による交流人口増加に期待

都市圏が一体となって
 「効果を出す」取組が重要



6. まとめ

ストック効果最大化に向けて

- 開通前から、全線開通を見通した東回り区間のストック効果に代表される地域連携の知見やレッスンを共有
- まちづくりに関する積極的な連携や議論の活発化

- 社会変化を踏まえた、東環の利活用を想定した新たな取組の検討
- 地域が連携して取り組むアイデアの検討とその実現
- 情報共有、情報発信の場としての、「東海環状西回り利活用会議」の活用
- 既存の連携取組における東環の利活用に着目した内容拡大（広域観光等）、等

東海環状自動車道等の中京圏の道路ネットワークの整備

都市圏内各地域の魅力向上の取組

東環を利活用した都市圏各地域が連携した取組（相乗効果）

都市圏内移動の円滑化

企業立地、観光入込客等に対する都市圏全体の魅力が向上

中京圏内の多種多様な産業への経済インパクトを獲得

全国計27兆円（50年間）を超える経済インパクトの獲得

1. 開催日時・場所

大野神戸IC地区	2019年8月22日 (木) 14:00~15:30	大野町役場大会議室
山県IC地区	2019年8月29日 (木) 14:00~15:30	山県市役所大会議室
東回り区間	2019年8月27日 (火) 10:00~11:30	美濃加茂市生涯学習センター
北勢地区	2019年10月7日 (月) 14:00~15:30	三重県四日市庁舎大会議室

2. 参加者

大野神戸IC地区 (計23名参加)

大垣市、瑞穂市、本巣市、海津市、養老町、垂井町、関ヶ原町、神戸町、輪之内町、揖斐川町、大野町、池田町、北方町

山県IC地区 (計9名参加)

岐阜市、羽島市、山県市、岐南町、海津市

東回り区間 (計15名参加)

多治見市、関市、美濃加茂市、土岐市、各務原市、可児市、坂祝町、富加町、八百津町、御嵩町

北勢地区 (計17名参加)

四日市市、桑名市、鈴鹿市、亀山市、いなべ市、木曽岬町、東員町、菰野町、朝日町、川越町

3. WSの目的・テーマ

【目的】

当ワークショップにより、地域の現状や目指すべき姿を東環沿線地域で共有し、東環の整備促進に向けた機運を高めるとともに、東環を利活用することによって地域にもたらされるストック効果を最大化する取り組みの方向性をとりまとめます。

【ワークショップテーマ】

- テーマ1：東環等に関わる現状・課題
- テーマ2：東環を活用した東海環状沿線地域の将来像

【アウトプット】

- アウトプット1：沿線地域が現状で認識している地域課題・東環のストック効果
- アウトプット2：沿線地域が考える東環を活用した目標とする将来像
- アウトプット3：1、2の結果を踏まえた取り組みの方向性 (アイデア)



4. ワークショップ風景

各WSともに、A、Bの2つのグループに分かれて実施しました。



大野神戸IC地区ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用、企業誘致に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みに係る課題、「まちづくり」では人口減少・流出に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「産業」に関連して、農業流通、産業の見直し、社会情勢の変化を踏まえた取組みがみられます。「観光・交流」では道の駅の活用、施設の構想・オープンといった取組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・農業振興地域の宅地（除外）化、除外が困難
- ・農振地域の土地利用、企業誘致
- ・農業振興地域がIC周辺を占めており、転用が難しい状況
- ・他の事業への転用制約年（8年）
- ・大垣西IC周辺について用途区域の設定に面積制限がある

【企業誘致】

- ・企業誘致に向けたPR不足
- ・企業誘致（工業団地整備）
- ・情報のアフターフォロー
- ・開通見通しが前倒しになったが、利用者が開通のイメージをできていない
- ・国内回帰する企業へのアプローチ

【農業の活性化】

- ・農業の衰退・人口の減少
- ・主産業が農業のみ

【雇用創出・確保】

- ・雇用の確保

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・観光施設基盤の整備（インバウンド等）
- ・観光客の呼び込み、観光施設の整備
- ・新たな客の取り込み
- ・観光客ターゲットの絞り込み

【特産品の開発・アピール】

- ・特産品の開発
- ・観光資源がない。
- ・農産物のアピールが下手

【観光ルート・観光資源の開発】

- ・観光ルート整備
- ・観光資源の利活用（周遊ルート）

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊施設の不足（滞在を促すため）
- ・観光客滞在時間の拡大、消費拡大

まちづくり

【人口減少・流出】

- ・人口減少
- ・空家対策
- ・人口流出
- ・定住化
- ・税収減少

【インフラ整備】

- ・道路整備に予算がつかない
- ・アクセス道路の整備の必要性

【住民参加】

- ・小学校区単位で実施され続けている地区イベントの集約化
- ・住民、利用者の意識、認識向上

【景観の維持】

- ・農村景観の維持

【取組み】

- ・農業流通促進
- ・土地利用型の産業の見直し
- ・農業振興地域対応非線引き・用途の特定
- ・経済貿易摩擦の影響考慮
- ・トヨタ自動車の方向性の転換による影響考慮
- ・町の魅力（持続可能な開発・バランス）

- ・IC周辺、道の駅近くに観光農園構想
- ・道の駅、池田温泉の集客に力を入れている（イベント等）
- ・観光誘客（岐阜関ヶ原古戦場記念館オープン）

- ・病院の進出
- ・（仮称）本巢PA公園を計画中

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、地域外からの人々を西濃地域に呼び寄せる「観光」に関する声が多く挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【産業】

- 新しい産業の開発が進む地域

【観光】

- 当地域ならではの産業が呼び込まれている
- 地域ブランドの確立・向上されている地域

【交通】

- 域内をマルチモードでアクセスできる地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 各市町が取組が重複せずいつでも何かが楽しめる地域
- 各市町が持っている観光資源を地域一体として一つになっている地域
- グルメのイメージが押し出されている地域
- サイクリング等を活用した観光ルート、広域ルートが整っている地域
- 沿線地域ブランドの確立・向上している地域
- 県レベルでの当地域のPRにより国内に知れ渡っている地域
- 河川も資源として活用した地域

【交通】

- 市域を越えたマルチモードアクセスができる地域
- 東海環状を含めた道路が使いやすい地域

【防災】

- 防災面で優位性を活かした地域
- 災害対応が進んでいる地域

【産業】

- 産業都市としての基盤づくりが進む地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】や【交通】に関するアイデアが多く挙げられました。特に、大野神戸 I C を起点とした街道・観光ルートや道路整備への取組アイデアが複数確認できました。

【観光】

- ご当地グルメの作成・PR
- 広域観光ルートバス
- イベントカレンダーの作成
- 大野神戸 I C を拠点とした観光ルートの確立
- 大野神戸 I C 拠点の福井への街道のPR
- 類似観光施設スタンプラリーでの連携
- 大河ドラマなどの民間とのコラボレーション
- 田園地帯の景観を活用した観光資源の開発
- イベント競合をなくし、連携して広域テーマを掲げる

【交通】

- 主要な場所を通るバスルートの作成
- 市町域を超えた公共交通バスの運行
- 東海環状道に公共交通を走らせる
- 自転車レンタルの整備
- ラストワンマイルの強化と他交通との連携
- 主要なところに行けるバスルートの開発
- 高速道路の自動運転化
- 料金施策の充実

【まちづくり】

- 名古屋から一番近い農村地域として発信
- 目玉となる場所をつなぐイメージづくり
- 様々な年齢層が楽しめるまちづくり

【道路整備】

- 大野神戸 I C を起点とした道路整備
- 大野神戸 I C から関ヶ原 I C へのアクセス改善

【企業誘致】

- IC周辺工業団地整備推進
- 産業誘致を広域でPR

山県 I C 地区ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みや観光地アクセスに係る課題、「まちづくり」では土地確保に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「観光・交流」に関連して、交通に関連した取組や商品開発等、様々な取組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・ ICから3km以内の工場用地の確保難しい、農地とのすみわけ
- ・ 農業振興地域が多い、農地転用
- ・ まとまった土地がない
- ・ 用地確保
- ・ IC付近に工業用地の確保

【渋滞】

- ・ 名神高速の渋滞（企業がいやがる）
- ・ 物流拠点の拡大期待、ルートの拡大による渋滞解消

【農業の活性化】

- ・ 農業組合との協力
- ・ 農業とのバランス

【企業誘致】

- ・ 開通見通しが遠いため、企業誘致が進みにくい

【雇用創出・確保】

- ・ 魅力ある雇用の創出

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・ 観光誘客コンセプト明確化
- ・ 観光客受入体制の整備
- ・ 広域観光誘客
- ・ 知名度向上

【観光地アクセス】

- ・ 市内観光地からICまでに距離がある
- ・ I Cからの距離
- ・ 観光バスが入れる道路整備（I Cアクセス）

【観光ルートの整備】

- ・ 複数地点の周遊促進
- ・ 観光資源発掘

【渋滞】

- ・ 駐車場が少ないため、渋滞が発生する

【滞在時間の拡大】

- ・ 市内滞在時間の延長

まちづくり

【土地確保】

- ・ 宅地化が進んだが、土地が残っていない
- ・ 一体利用できる広い土地が少ない（無秩序に開発されている）
- ・ 岐阜羽島IC周辺地域が市街化調整区域

【インフラ整備】

- ・ 道路（市道）開発に必要な接道要件
- ・ 東環状と接続する道路と一体で進める必要あり

【人口減少】

- ・ 人口が増えない、一気に高齢化
- ・ 人口増（目標）雇用確保

【都市計画】

- ・ I Cを中心とした都市計画の充実

【取組み】

- ・ 物流拠点の拡大期待、ルートの拡大による渋滞解消
- ・ 団地の可能性調査

- ・ パークアンドライド（シャトルバス）渋滞減
- ・ 岐阜市NPO法人等との連携
- ・ 観光客受入観光ガイド育成
- ・ 観光商品開発（名古屋発モニターツアー）
- ・ I C付近の彼岸花名所とのアクセスを計画
- ・ I Cから主要観光拠点へのサイン計画
- ・ 西濃全体で観光してもらおう（他市も）
- ・ ファミリーパーク整備 長大すべり台（東海随一）

- ・ 公共交通 バスターミナル整備
- ・ ハイウェイバスをとりこみたい
- ・ 岐阜地域広域圏協議会

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、「観光の拠点化」、「大河ドラマを契機とした地域連携」、「知名度上昇」が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【定住】

- 定住化が進む地域
- 人口が維持できる地域

【産業】

- 企業立地が促進されている地域

【観光】

- 交流人口が増加し地域経済が活性化している地域

【まちづくり】

- I C を核としたコンパクトシティが形成されている地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 観光の拠点化が進む地域
- 大河ドラマを契機とした地域連携が進む地域

【まちづくり】

- 知名度が上昇している地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】において、関西方面からの観光客誘致や宿泊客誘致といったアイデアが多く挙げられたことが特徴的です。

【観光】

- スキー客のキャンプ場等への宿泊者の取り込み
- 四日市港のクルーズ船からの誘客
- 体験型アクティビティを活かす
- 関西地方からの外国人誘客
- 行政界を超えた観光PR等の連携
- 関西向けの共同観光PR
- 宿泊と日帰りの棲み分けした相互連携PR
- 関西スキー客の取り込み
- 宿泊モデルプランの構築
- 岐阜羽島駅を拠点とした沿線への観光客の展開

【まちづくり】

- I C 付近に目玉スポットを形成
- 東環を利用すると通勤時間がよいことのPR

【産業】

- 関西への販路拡大

【交通】

- バスターミナルと名古屋市直行便の開設

東回り区間ワークショップ結果概要

1. 当地区が抱える課題と取組

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用、企業誘致に係る課題が多く挙げられています。また、「観光・交流」では新たな客の取り込みや観光地アクセスに係る課題、「まちづくり」では土地確保の課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「産業」に関連して、工業団地計画や規制緩和、4車線化などの取り組みがみられます。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域の土地利用】

- ・インター付近における企業進出、希望の増加、希望にそえる場所の提供が困難
- ・農振転用、農家との調整
- ・企業等進出に伴う農政との調整
- ・I C付近に農振農用地が多い
- ・工業用地の確保、農振がハードル（8年ルール）
- ・土地の確保、立地を急ぐ企業の要望に応えられない
- ・企業用の土地はない、まとまった土地がない

【企業誘致】

- ・企業受入基盤の整備
- ・次なる企業誘致
- ・豊田関連企業からの用地問い合わせ
- ・競合に負ける、土地の値段、造成に時間かかる
- ・西回りの整備工業団地との流通等

【雇用創出・確保】

- ・生産年齢人口の増加
- ・新たな工業団地の造成、雇用の確保

【開発】

- ・開発とのバランス
- ・地場産業との共存

【インフラ】

- ・企業BCD 4車線化

観光・交流

【新たな客の取り込み】

- ・観光客の増加（杉原千畝記念館）年間3万人弱→増やすために
- ・都市圏(名古屋)からの観光客流入、呼び込み
- ・+αの観光スポットもう一足先への立ち寄り
- ・観光施設集客が見込めない

【観光地アクセス】

- ・ICからのアクセス向上の必要性
- ・道の整備（恵那方面からの）
- ・国道の渋滞が課題

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊施設

【観光ルート・観光資源の開発】

- ・アウトレット・イオン以外のものが弱い

まちづくり

【渋滞】

- ・インターを降りてからの道路の整備（中心地への案内など）（生活道路渋滞への影響）
- ・道路の整備が間に合わない。大型店に交通が集中。
- ・渋滞対策・名神(一宮周辺)

【インフラ整備】

- ・インターチェンジからのアクセス道路の充実
- ・幹線道路の整備
- ・交通量増による安全性低下

【人口減少・流出】

- ・若い世代の流出（独占の方も流出）
- ・人口増対策

【土地確保】

- ・インター付近特定用途制限

【公共交通】

- ・公共交通

【取組み】

- ・可児御嵩 I C 周辺の工業団地造成計画
- ・IC周辺の特定期用途制限地域の規制緩和
- ・新たな企業誘致
- ・4車線化の要望
- ・安全安心な計画の位置付け、リダンダンシーの確保、防災面の強化を目指す

(なし)

- ・誘致企業社員の移住受入施策の実施

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿として、「観光」だけでなく、「まちづくり」や「産業」など幅広い分野で、連携を望む声が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【まちづくり】

- 自動運転により駐車場がいらなくなり、新たな土地活用ができる地域
- 自動運転により人件費削減、交通事故減少、IC周辺の土地の需要が増加する地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【観光】

- 中山道が外国人にPRできている地域
- スマートICを活用して、観光やまつりへの入込みが増える地域
- 相互PRにより域内の周遊が活発化している地域
- SAを活用した特産物の紹介ができている地域

【まちづくり】

- 自動運転により駐車場がいらなくなり、新たな土地活用ができる地域
- 自動運転により人件費削減、交通事故減少、IC周辺の土地の需要が増加する地域
- 歴史・文化を柱とした近隣市町との連携が進む地域
- 産業と観光が組み合わさっている地域

【産業】

- 沿線の企業間の物流が活発化し産業が強力になっている地域
- 物流の人手不足がカバーできている地域
- 工業用地の価値が向上している地域

【交通】

- SA/PAで乗り降りでき周遊できるバスが走る地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【観光】や【交通】において、「SA・PA」の活用アイデアが複数挙げられました。また、医療・教育環境の充実などの【まちづくり】や高校生への地元企業紹介などの【企業誘致】に関する取組アイデアが多く挙げられた点も特徴的です。

【観光】

- 古民家を改修して宿泊施設に転用
- インバウンドに向けた積極的なまちづくり
- 沿線全体で呼び込みプラスαで各観光地に展開
- 周遊のためのマップ・冊子づくり
- SAの充実
- SAを活用した特産物の紹介

【交通】

- IC間バス、ICと主要エリアとの交流促進
- 電車のダイヤ見直し
- 自動運転・新技術対応レーン整備
- SA・PAに集配所・物流センターを設置
- 貨客混載

【企業誘致】

- 地元企業紹介等の高校生など若者へのアプローチ
- 企業誘致による雇用・人口の増加
- さらなる企業誘致
- 工業用水の確保

【まちづくり】

- 医療、教育環境の充実
- 地域のPR
- 移住・定住の促進
- 関西との連携
- 雇用の確保

【道路整備】

- ICアクセス時間の短縮
- ICの増設
- 高速道路ネットワークの拡充

1. 当地区が抱える課題と取り組み

課題としては、「産業」では用地確保・農業振興地域の土地利用に係る課題、「観光・交流」では観光資源の開発・アピールに係る課題、「まちづくり」では定住化や土地利用に係る課題が多く挙げられています。

取組みをみると、「観光・交流」および「まちづくり」に関連して、交通拠点である港湾、駅前広場の利活用が進められています。

【課題】

産業

【用地確保・農業振興地域等の土地利用】

- ・産業用地の不足
- ・行政面積がせまい
- ・農業振興地域のための開発が難しい
- ・市街地調整区域である為、土地利用に制限がある
- ・企業の立地条件・ニーズへの対応が難しい

【渋滞・アクセス性】

- ・高速道路からのアクセス道路整備が十分でない
- ・市内の道路における渋滞

【農業の活性化】

- ・農業従事者の高齢化、後継者不足が深刻化

観光・交流

【観光資源の開発・アピール】

- ・観光資源が乏しい
- ・特産品がない
- ・地域の産業・観光をPRしていく方法の確立

【観光ルート等の整備】

- ・観光ルートの整備
- ・大型観光バス駐車場が少ない

【観光アクセス】

- ・ICまでの道路整備

【滞在時間の拡大】

- ・宿泊観光客が日帰り観光化

まちづくり

【道路交通渋滞・自動車依存】

- ・市内の渋滞
- ・運送会社の拡大による大型車の集中
- ・公共交通機関が少なく車に依存

【人口流出・定住促進】

- ・企業の従業員の住居確保
- ・人口流出への懸念
- ・人口は横ばいでも定住に結びつかない

【都市計画・土地利用】

- ・開発余地が小さい
- ・IC周辺の土地利用
- ・住宅地の開発

【インフラ整備】

- ・高速と中心部を結ぶアクセス道路の整備
- ・災害時の物流支援、広域道路ネットワークの整備

【環境保全】

- ・高速道路開通による住環境への不安

【取組み】

- ・工業団地の分譲開始

- ・大型外国船の誘致、ポートセールス

- ・駅前広場における検討（バス乗降場再編等）

2. 当地区が目指す姿

周辺地域と連携して目指す姿としては、「物流の自動化」、「企業立地促進」、「まちづくり・医療の連携」、「無事故化」が挙げられました。

各地域単独で目指す姿

【産業】

- 企業誘致が進み新たな産業施策に取り組んでいる地域

【観光・交流】

- 都市との交流が身近になる地域

【定住】

- 人口の増加を目指し活性化されている地域

【まちづくり】

- 障害者が安心して住める地域

周辺地域と連携あるいは広域連携して目指す姿

【産業】

- 物流が自動化され効率化されている地域
- 地産品の生産・出荷が増加している地域
- 災害に強い地域特性を活かした企業立地促進を連携して取組む地域

【まちづくり】

- ひとつの圏域としてまちづくりを進める地域
- 広域的に医療が連携されている地域

【交通】

- 高速道路の自動運転化により無事故化されている地域

3. 目指す姿に向けた取組アイデア（周辺地域と連携あるいは広域連携する具体内容）

【交通】や【観光・交流】に関するアイデアが多く挙げられました。特に、P R等の情報発信や公共交通の活用に関するアイデアが複数挙げられた点が特徴的です。

【交通】

- 高速道路の自動運転化
- 高速料金の見直し
- 自動運転技術の活用による渋滞の削減
- E Vスタンドの充実
- 周辺企業や市民へのスマートIC利活用のP R
- リニア停車駅までの広域的なバスの運用
- 市町域を越えた公共交通バスの運行
- 観光地におけるレンタサイクルの充実
- 迂回路マップの作成

【観光・交流】

- 地域間交流のためのオープンデータの推進
- ネットの活用による更なる観光の活性化
- 高速バスの運行による観光客の増加
- 北勢地域での高速を利用した観光マップの作成
- ICにそれぞれインパクトのある施設
- L C Cの増加による誘客
- 高速道路と並行する長い自転車道路整備
- 東環による北陸地域へのアクセス向上P R

【まちづくり】

- IC周辺での土地区画整理事業の活用
- 他地域や国外への利便性向上のP R

【産業】

- 物流効果を高める岐阜方面との広域連携

【道路整備】

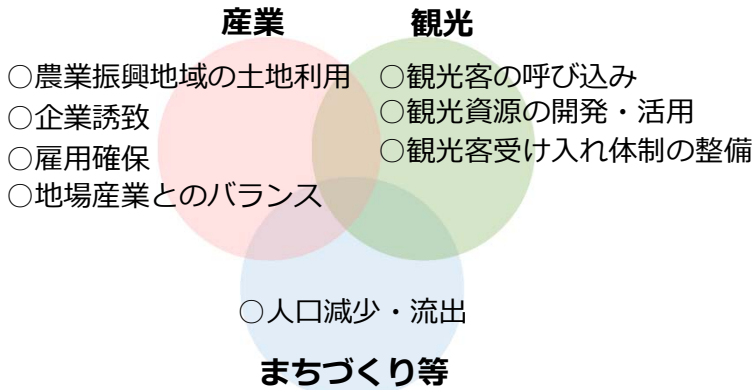
- バイパス等、県内主要道路の整備

ワークショップ結果全体から得られた成果

1. 地域の課題

【共通課題】

共通課題として、産業では、企業誘致の際の農業振興地域の利用や雇用確保、観光では、観光客の呼び込み、まちづくり等では人口減少・流出となりました。



【地域個別課題】

共通課題以外の地域個別に課題は、下表のように整理されます。

	産業	観光	まちづくり等
大野神戸IC地区	・農業の衰退 ・農産品のアピール	・観光ルートの整備 ・宿泊施設不足	・空き屋対策
山県IC地区	・名神の渋滞	・知名度の低さ ・市内観光渋滞の発生	・開発余地が小さい
東回り区間	・企業立地ニーズへの対応 ・BCPに係る東環4車線化	・大規模商業施設以外の観光資源が弱い	・東環開通後の交通量増加に伴う渋滞・安全性の確保 ・公共交通の確保
北勢地区	・渋滞・アクセス性 ・農業の活性化	・観光ルート等の整備 ・観光アクセス ・滞在時間の拡大	・道路交通渋滞・自動車依存 ・都市計画・土地利用 ・環境保全

2. 地域が連携して取り組むテーマ（箇条書きはアイデア）

①東環沿線地域への企業誘致

- ・I C周辺工業団地整備推進
- ・産業誘致を広くPR・地元企業紹介等の高校生など若者へのアプローチ
- ・企業誘致による雇用・人口の増加／さらなる企業誘致
- ・工業用水の確保
- ・関西への販路拡大
- ・物流効果を高める岐阜方面との広域連携

②東環沿線地域が一体となった観光客の獲得

- ・ご当地グルメの作成・PR
- ・東環I Cを拠点にした福井への街道のPR
- ・行政界を超えた観光PR等の連携
- ・東環による北陸地域へのアクセス向上PR
- ・イベントカレンダーの作成
- ・東環I Cを拠点とした観光ルートの確立／広域観光ルートバス
- ・田園地帯の景観を活用した観光資源の開発
- ・類似観光施設スタンプラリーでの連携
- ・大河ドラマなどの民間とのコラボレーション
- ・イベント競合をなくして広域テーマを掲げる
- ・体験型アクティビティを活かす
- ・岐阜羽島駅を拠点とした沿線への観光客の展開
- ・沿線全体で呼び込みプラスαで各観光地に展開
- ・周遊のためのマップ・冊子づくり／北勢地域での高速を利用した観光マップの作成
- ・SAの充実とSAを活用した特産物の紹介
- ・地域間交流のためのオープンデータの推進
- ・ネットの活用による更なる観光の活性化
- ・高速バスの運行による観光客の増加
- ・I Cにそれぞれインパクトのある施設
- ・高速道路と並行する長い自転車道路整備
- ・インバウンドに向けた積極的なまちづくり
- ・四日市港のクルーズ船からの誘客
- ・LCCの増加による誘客
- ・関西地方からの外国人誘客
- ・関西向けの共同観光PR／関西スキー客の取り込み

③東環沿線地域が連携した宿泊者の取り込み

- ・スキー客のキャンプ場等への宿泊者の取り込み
- ・宿泊と日帰りの棲み分けした相互連携PR
- ・宿泊モデルプランの構築
- ・古民家を改修して宿泊施設に転用

④先進技術等を活用した沿線地域内移動の円滑化

- ・主要な場所を通るバスルートの作成
- ・市町域を超えた公共交通バスの運行
- ・東海環状道に公共交通を走らせる
- ・自転車レンタルの整備／観光地におけるレンタサイクルの充実
- ・ラストワンマイルの強化と他交通との連携
- ・主要なところに行けるバスルートの開発
- ・高速道路の自動運転化
- ・料金施策の充実
- ・I C間バス、I Cと主要エリアとの交流促進
- ・電車のダイヤ見直し
- ・自動運転・新技術対応レーン整備
- ・SA・PAに集配所・物流センターを設置
- ・貨客混載
- ・バスターミナルと名古屋市直行便の開設
- ・高速料金の見直し
- ・自動運転技術の活用による渋滞の削減
- ・EVスタンドの充実
- ・周辺企業や市民へのスマートI C利活用のPR
- ・リニア停車駅までの広域的なバスの運用
- ・迂回路マップの作成

⑤東環沿線地域が連携したまちづくり

- ・I C付近に目玉スポットを形成
- ・東環を利用すると通勤時間がよいことのPR
- ・名古屋から一番近い農村地域として発信
- ・目玉となる場所をつなぐイメージづくり
- ・様々な年齢層が楽しめるまちづくり
- ・医療、教育環境の充実
- ・地域のPR／他地域や国外への利便性向上のPR
- ・移住・定住の促進
- ・関西との連携
- ・雇用の確保
- ・I C周辺での土地区画整理事業の活用

⑥連携を促進する道路整備

- ・大野神戸I Cを起点とした道路整備
- ・大野神戸I Cから関ヶ原I Cへのアクセス改善
- ・I Cアクセス時間の短縮
- ・I Cの増設
- ・高速道路ネットワークの拡充
- ・バイパス等、県内主要道路の整備

東海環状自動車道の利活用による『まちづくり未来マップ』

令和元年11月8日現在

参考資料1

暫定2車線計画

- 東海環状自動車道
- その他の高速道路
- 国道
- 主要地方道
- 地域づくり
- 産業振興
- 観光振興
- アクセス道路

※()書きのIC名称は仮称

